

米沢有為会#文化大学 オンライン講演会

令和5年度第1回(通算第34回)
令和5年7月23日(日)

我妻榮先生の人となりを伝える 没後50年・記念館開館30周年に際して

講師：矢尾板 操 さん
米沢有為会我妻榮記念館 館長
米沢有為会 理事

ホームページから講演資料をプリントアウトしてお手元にご準備ください

1

<講師の自己紹介> やおいた・みさお

昭和25(1950)年、矢尾板家第13代として米沢に生まれる。米沢興讓館高校を経て、福島大学経済学部卒業。旧三菱銀行(現三菱UFJ銀行)に約20年勤務。平成10年米沢に戻る。米沢信用金庫に約10年勤務。

余談ながら、米沢に戻った平成10年は、実に不思議なご縁が重なった年。興讓館藩学創設三百年の年で、矢尾板三印が開設してから三百年と新聞報道。応援歌にある「栄えある歴史三百年…」の三百年で、その後細井平洲先生が再興し興讓館としたのは有名な話。市史編纂委員で矢尾板三印のお墓研究者の提案にもとづいて法音寺高梨良興住職と故米野一雄前温故会会長と私で発掘作業を行い、平成19年に発見・発掘される。故米野一雄先生の温故会での発表の日に信用金庫を退職しサラリーマン生活を卒業。

その後、福島大学大学院経済学研究科(修士課程)卒業、同大学院共生システム理工学研究科(博士課程)満期終了。平成26年山形交通圏タクシー事業適正化・活性化協議会会長、平成29年米沢有為会我妻榮記念館館長に就任して、現在に至る。



米沢市出身の民法学者我妻榮(1897~1973)年を顕彰する「我妻榮記念館」(同市、矢尾板操館長)は9日、同市の三沢東部小(旁賀由加里校長、38人の5年生6人に我妻の功績を紹介する冊子を贈った。冊子は同館を運営する米沢有為会(山本三三館長)の「故郷を愛した民法学者我妻を顕彰する冊子」を贈る。冊子は三沢東部小に矢尾板館長らが訪れ、児童代表に冊子を手渡した。今年には市内16校の6、7、8人に贈る。

「我妻先生」。我妻の子も時代や民法研究の功績などを紹介する内容で、同館の開館30周年を記念して2017年に作製した。同館では米沢の子どもたちに我妻の偉人を知らせてもらう。19年から毎年、市内の小学校5年生以上と同冊子を1冊ずつ贈っている。代表校の三沢東部小には矢尾板館長らが訪れ、児童代表に冊子を手渡した。今年には市内16校の6、7、8人に贈る。

山形新聞 令和3年11月17日

2

我妻榮先生が歩まれた道

明治30(1897)年4月1日、米沢市鉄砲屋町(現我妻記念館)で、又次郎(米沢中学校英語教師)・つる(興讓小学校訓導)の2姉1男2妹の第3子として出生。市立興讓小学校、県立米沢中学校(父の愛称「自雷也」)に因んで「自雷子」の愛称で呼ばれる)から第一高等学校を経て、東京帝国大学法学部に進学、在学中に高等文官試験合格、大正9(1920)年卒業。助手、助教授(2年半は米欧留学)を経て、昭和2(1927)年に30歳で民法学教授。この前年に留学帰国の船上で知り合った鈴木緑(米次郎・磯菜の四女)と結婚。2男を授かる。33歳で左足首の関節炎にかかり、以後ギブス着用。教壇に立つかたわら民法改正調査等の各種委員会活動にも参画。36歳時に軽井沢、41歳時に真鶴に各別荘を建て、執筆の拠点等として終生通った。終戦直後に法学部長。貴族院議員に勅選される等、農地・鉱業・教育など各方面の戦後立法に関与、特に家制度廃止を軸とする民法改正に中心的役割を果たす。日本学士院会員、日本学術会議会員・副会長として活躍。60歳で大学定年退官して名誉教授。法学博士。退官後に原子力委員会専門委員、法務省特別顧問等要職で貢献。昭和39(1964)年文化勲章受章、米沢市名誉市民に。小学校時代の恩師・赤井運次郎と深い交流を重ねる。晩年、母校米沢興讓館高等学校に「自頼奨学財団」、母校興讓小学校に「まがき文庫」を設立して若人を支援。昭和48(1973)年10月21日逝去。享年76歳。我妻榮記念館の初代名誉館長・堯氏(産婦人科医・法医学者)は榮先生の次男、現名誉館長・学氏(東京都立大学法科大学院教授)は堯氏の長男。



大正15年縁夫と結婚
当時、榮先生29歳

4

<文化大学での講演に臨んで、講師の思い>

私は平成29年に縁あって公益社団法人米沢有為会我妻榮記念館館長を拝命しました。

もちろん我妻榮先生に直接お会いしたことはありませんし、お話をしたこともありません。我妻榮先生を知る術は全て文献等を通してのことになります。

当時から著名な先生でしたから、実に多くの方が先生に関わる出来ことや当時の状況を描写してくれていました。

それらを拝見して驚いたことがあります。我妻榮先生に対して全てに共通していること・・・それは我妻榮先生に対する尊敬と敬愛の念でした。

確か、先生の教え子のひとり、利谷信義東京大学名誉教授が「神様」という言葉を使っておられたが・・・神様に近い方だと思ふようになりました。

神様という至高の存在を皆様に上手にお伝えできるかどうか
没後50年を機に我妻榮先生を甦らせることができるかどうか
・・・はなはだ不安ではあります。

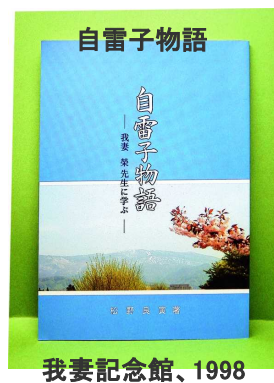
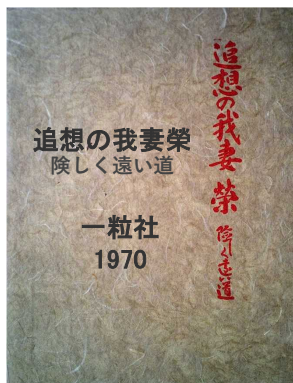
そこで多くの方の記録された文献の中から、一部を原文のままご紹介したいと思います。



講師近影

3

<「我妻榮先生の人となり」を伝えるエピソードの出典>



ジュリスト
563号
(1974.6.1)
特集:我妻法学の
足跡—我妻榮先生
追悼 有斐閣

◆参考文献◆ 我妻榮『民法と五十年』(全3巻。有斐閣、1967-76)／我妻榮『法律随想』(有斐閣、1963)／我妻榮『身边随想』(有斐閣、1963)／我妻榮『海外随想』(有斐閣、1964)／我妻榮『法律における理屈と人情』(日本評論社、1955)／我妻榮『法律学と私』(日本評論社、1967)／『民法院内1』(一粒社)／上村良作『米沢における敬師の系譜』(米沢信用金庫、1970)／松野良寅『我妻榮先生』(我妻榮記念館、1992)／松野良寅編『我妻榮 人と時代』(生誕百年記念実行委員会、1997)／『母校愛の熱弁』(自頼奨学財団理事会、2000)

5

米沢大火の被災を免れた生家

我妻榮記念館の初代館長松野良寅先生が語る記念館の建物

大正6年の米沢大火で周囲が焼け野原になったのに我妻榮先生の生家だけが延焼を免れた

米沢中学の生徒が火災から守る



7

人間●我妻榮先生 天与の才能 —お人柄

接した人がすべてそうだと
言っていたことに焦点

多くの方による、
その場面、その時、の記録をご紹介します

大きな疑問？

- あのような偉大な人格がなぜ米沢から生まれたのか
- 日本の大きな転換点でなぜあのような行動をとれたのか
- なぜあんなに誰にでも親切なのか
- なぜ底抜けに明るい性格なのか

6



昭和48年9月
生家2階6畳間
窓辺で

おせっかい好きの少年

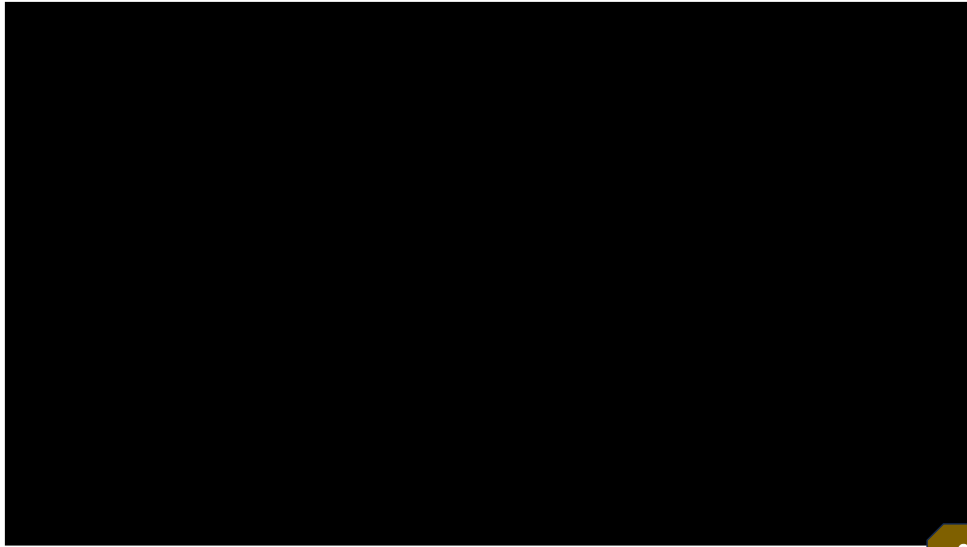


昭和39年11月文化勲章受章を米寿の恩師赤井運次郎先生に報告する夫妻

8

母校・興譲小学校での講演(73歳)

興譲小90周年記念 我妻榮先生を迎えて
(米沢市視聴覚センター所蔵 No.131)



9

米沢の風土から

愛弟子であった
米沢人・遠藤浩が伝える
我妻榮先生像

遠藤浩(1921-2005)
同じ酉年生まれの2回り下の民法学者
学習院大学名誉教授が語る

植木の手入れをする
我妻榮先生



10

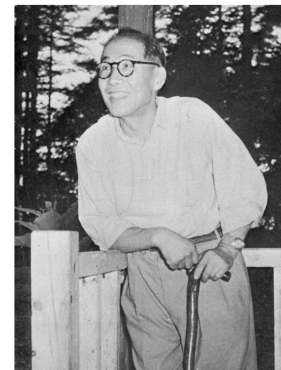


大正3年の家族写真。我妻榮先生17歳、米沢中学から一高入学の時

11



昭和29年
真鶴にて



昭和35年(63歳)夏の軽井沢にて
この年6月5日朝日新聞政治面に「岸信介君に与える」
を寄稿

12



軽井沢の別荘にて、愛犬アベベと

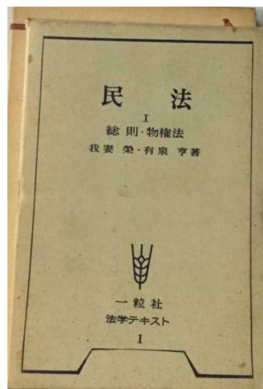
親切な人



3歳年下の 憲法学者・宮沢俊義の追憶

普通ならそこまで他人(当人以外の関係者まで)の面倒をみるかという話・・・

これに類した話は沢山・・・



※我妻榮先生夫妻の愛車・小型でパワフルで小回りのきく「ダットサン」に因んで我妻榮先生の名著『民法』(全3冊。一粒社刊。現在、勁草書房から再刊)は『ダットサン民法』の愛称で広く読まれた

13

昭和48年10月26日 告別式
(於:青山斎場)における

友人・南原繁の弔辞

南原繁は我妻榮先生より8歳年長の友
香川県生まれの政治学者
昭和20年12月-26年12月 東大総長
昭和45-49年 日本学士院院長

戦後初の東大総長が捧げる
戦後の混乱時期を我妻榮と共に
乗り切る その友への弔詞
心に響く言葉で伝えている

「生涯を賭けて究めた学問的業績は
永くわが学会に残り、さらに君の
人格と遺風は……郷土米沢の人々を
始め、君を識り、君に接した多くの
人達の心にいつまでも生き、伝えられ
てありましょう。」



我妻榮先生肖像

15

終戦(48歳)8月15日の言葉

先生は戦前研究に集中し、戦後広く社会的活動をした。
その転換点となる言葉を助手の中山文枝さんが記録してくれた。

「8月15日……北鎌倉の寓居で……ラジオで終戦の大詔をきいた私は、動転した気持ちのまま、先ず先生におめにかかろうと思い、その日の内に石神井のお宅にかけつけました。先生は、真夏の晚い午後の日差しの中で、芝生に坐って、静かに薪を作っておられました。が、おろおろと涙声で訴える私に、こう言われました。」

「戦争に敗けたことはかなしいことだが、長い夜が明けたようなことだ。これからやらなければならないことがたくさんあるし、あなたにも今まで以上に手伝ってもらわなくてはならないと思う。動乱の時期には、激流の中に独りで立っているようなもので、流れに逆らうのも、流れに流されるのもやさしいが、流れの中に立って流されないことが一番難しいのだ。」

「それまでの暗い戦争の毎日にも、先生は私のような若い者には、悲憤憤慨するようなことは全くなく、黙って研究に専心されていたように見えたが、私はこのとき先生の本当の心をはじめて、みたような思いに感動しました。

戦時中の屈折の多い暗い日々を乏しい食料事情で、やせて小さくなられていた先生の目がきびしい決意でかがやいているように見えました。」

14



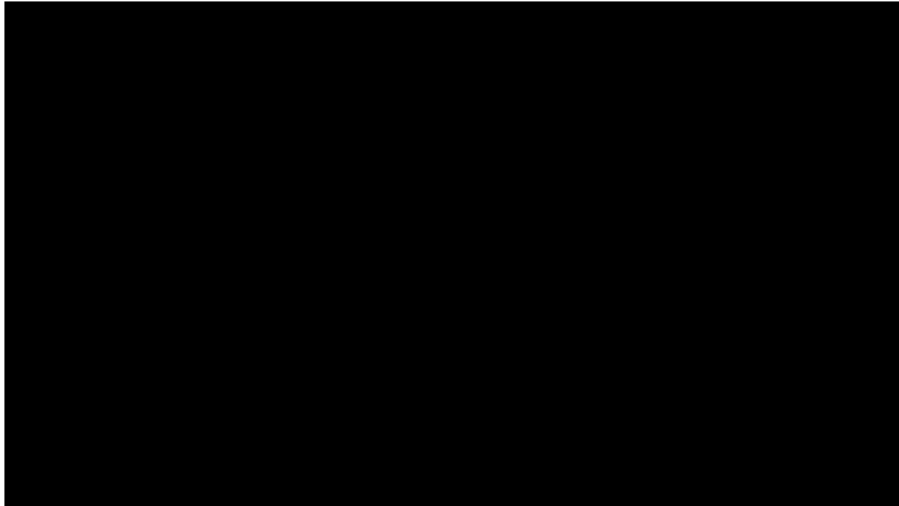
我妻榮先生(76歳)ご夫妻
最晩年、ご逝去の昭和48年、
生家2階6畳間の窓辺で

まとめ

16

最近の我妻榮記念館紹介

米沢日報デジタル 令和元年9月11日



17

米沢市名誉市民我妻榮没後50年 我妻榮記念館開館30周年記念事業(2)

◆事業内容◆

【1】ハード事業・①～③ 【2】ソフト事業・④～⑦

- ①銅像建立 記念館前の駐車場(除幕式 10月21日午前)
- ②周辺環境整備(ウコギ垣整備等)
- ③記念館内の展示環境整備・我妻榮の自筆書簡(初公開)他
- ④記念式典・記念講演、パネルディスカッション 命日の10月21日(土)午後
講師:新堂幸司氏(弁護士、元東京大学法学部長、榮氏から指導を受けた方)
パネラー 新堂幸司氏、我妻学氏(東京都立大学大学院教授、榮氏の孫)
柿崎聡太氏(明治大学法学部学生、米沢出身)
コーディネーター 矢尾板操氏(我妻榮記念館館長)
- ⑤我妻榮特別展 9月29日～11月22日
第1会場:ナセBA先人顕彰コーナー、第2会場:我妻榮記念館
- ⑥生家訪問促進(米沢市内中学生対象、リーフレット配布)
- ⑦法律相談(対象者は公募 10月21日 午前実施)

◆募金活動◆ 2022年11月1日～2023年9月30日

対象者:米沢有為会会員、米沢興譲館高校同窓生、法曹界の方々、その他賛同者

19

米沢市名誉市民我妻榮没後50年 我妻榮記念館開館30周年記念事業(1)

◆趣旨◆ 令和4年の我妻榮記念館開館30周年、令和5年没後50年の2つの節目に際して、記念事業を通じて、市民はもとより広く全国に我妻榮の功績や人物等を広報するとともに、来館者・来米者の増加(観光振興)を図り、教育振興を進める。

◆実施主体◆

主催:米沢有為会 米沢市
主管:我妻榮記念館
(記念事業実行委員会)
協賛:(公財)自頼奨学財団
県立米沢興譲館高等学校
米沢興譲館高等学校同窓会
米沢市立興譲小学校
鷹山公と先人顕彰会
(公財)上杉文化振興財団



18

質疑応答

- 質疑
- 文化大学参加者が語る
我妻榮先生の想い出、等

米沢有為会#文化大学

後日、講演録画がYouTubeにアップされます

20